

平成28年度
花巻市行政評価報告書

平成28年9月
花巻市行政評価委員会

平成28年度

花巻市行政評価報告書

目次

1	委員長あいさつ	1
2	花巻市行政評価の概要	
	・行政評価とは	2
	・行政評価の目的	3
	・まちづくり総合計画の構成（政策体系）と行政評価	3
	・行政評価の手法	4
3	行政評価委員会における評価の視点	5
4	評価対象の施策	6
5	評価スケジュール	7
6	評価検証シート	
	・しごと部会	8
	・暮らし部会	12
	・人づくり・地域づくり部会	16
7	行政評価に関する提言	20

参考資料

・花巻市行政評価委員会設置要綱	21
・委員名簿	22

1 委員長あいさつ

花巻市では、平成 19 年度に行政評価を導入して事務事業評価を実施し、平成 20 年度から施策評価を実施するなど、行政評価制度の充実を図っています。行政評価の目的は、総合計画における政策、施策、事務事業について、年度ごとにその成果を客観的に評価し、その結果を次年度の施策の方向や予算等に反映させようとすることにあります。

花巻市の行政評価制度の充実の一環として平成 23 年度に設置されたのが花巻市行政評価委員会です。本委員会は、市の行政評価の客観性と透明性の向上を図ることを目的として活動しております。その活動は、委員が所属する3つの部会（「しごと」、「暮らし」「人づくり・地域づくり」）における施策及びそれを構成する事務事業について内部評価に対する市民の立場からの評価、全体会における各部会の評価結果の共有、行政評価制度のあり方等に関する提案という形をとって表れています。本委員会はこれらを報告書としてまとめるとともに、ホームページを通して広く市民に公表することで、花巻市における行政評価制度の更なる充実を図るうえで重要な活動を担っていると認識しております。

ところで、花巻市では、平成 25 年度の花巻市まちづくり総合計画の策定を機に、平成 26 年度から、施策レベルでの評価をメインとした、施策を構成する事務事業の選択・重点化を重視した評価に変更しています。今年度の行政評価委員会でも、これを受ける形で、12 施策（57 事務事業）を評価対象としました。これらの評価と検証に関する各部会、全体会議の議論の内容については本文をご覧ください。

各委員の方々には、多忙な中、貴重な時間を割いていただき、猛暑にもかかわらず部会での評価や全体会での議論に参加いただきました。行政評価対象の施策主管課の方々にはヒアリングのために評価用の資料作成、丁寧な説明をいただきました。委員会事務局の方々には円滑な運営、そして短期間での報告書作成のために尽力いただきました。この場をお借りして関係各位に深く感謝申し上げます。

本報告書が、今後の花巻市の行政活動を改善するための議論の参考となれば幸いです。

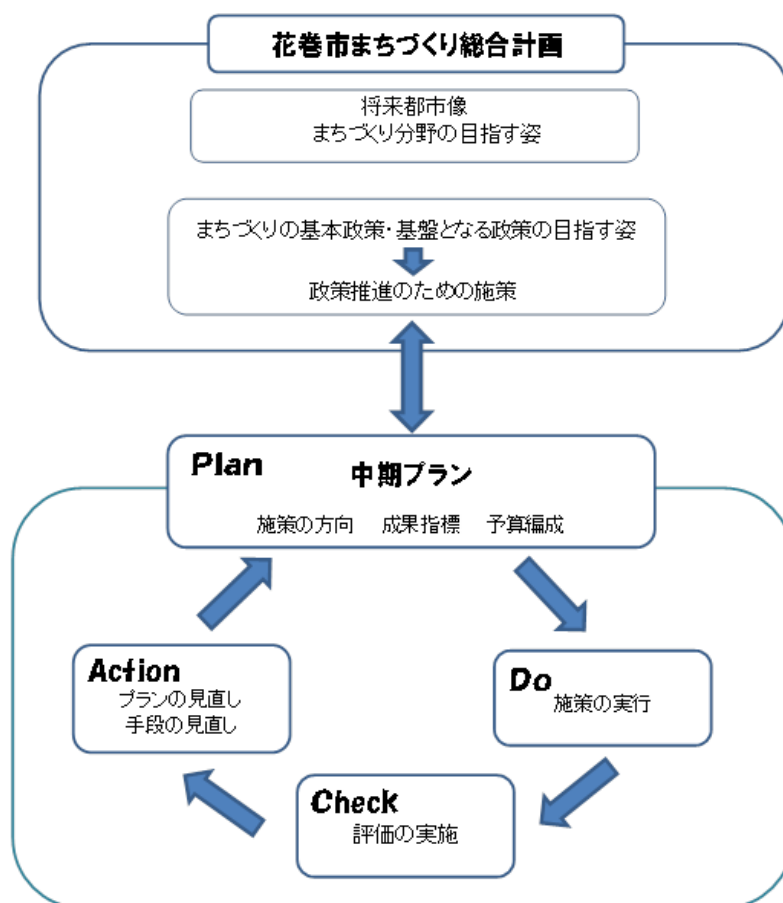
花巻市行政評価委員会 委員長 影山 一男

2 花巻市行政評価の概要

行政評価とは

行政評価とは、花巻市まちづくり総合計画における政策や施策、事務事業についてどのような成果があったかを客観的に評価し、その結果を次の施策等に反映させるためのものです。

具体的には、花巻市まちづくり総合計画の政策体系に沿って、計画（Plan）・実施（Do）・評価（Check）・改善（Action）のサイクルにより、前年度の結果を振り返り、そこから改革や改善の方策を考えて、次年度の施策の方向や予算等に反映させます。



行政評価の目的

(1) 効果的・効率的な行政運営の推進

限られた行政資源（ヒト、モノ、カネ）を最大限活用し、事務事業の効率化、適正化を図るとともに、目的の達成状況等を評価して見直し・改善を行います。

(2) 市民への説明責任と行政情報の共有

評価結果をわかりやすいかたちで公表することで、市民に対する説明責任を果たすとともに、市政への共通認識を深め、市民と行政との協働の取組みを進めます。

(3) 職員の政策形成能力の向上と意識改革

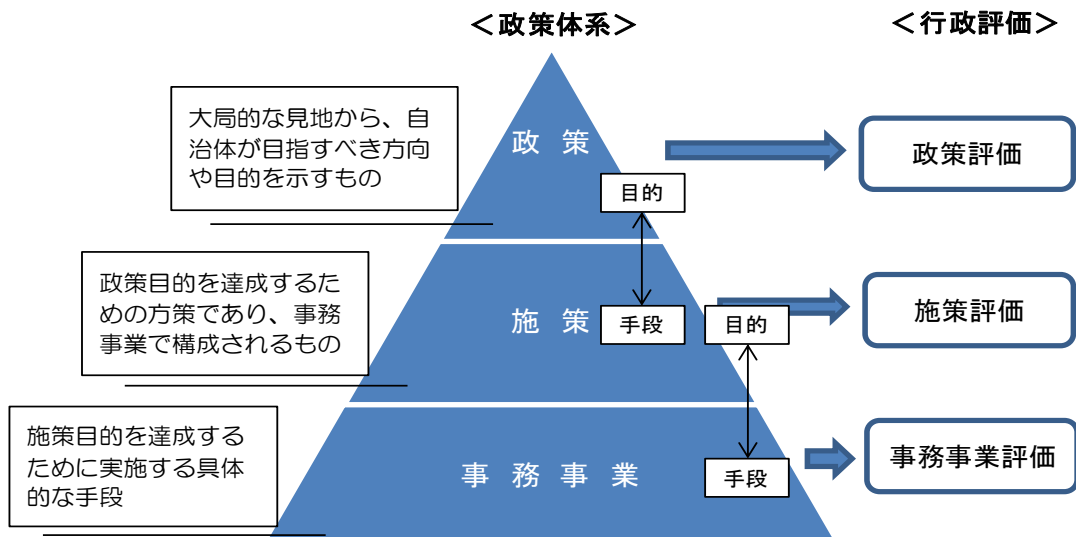
評価を通じ、目的・成果・コスト意識を持つことにより、職員の政策形成能力の向上や財源を効率的・効果的に活用する意識の徹底を図ります。

(4) 総合計画の進行管理

総合計画の各施策について、成果指標の達成状況の把握等により、その進行管理を行うとともに、施策目的達成のための事務事業の構成など、施策の方向性を検討し、次年度の重点施策の策定と予算編成への活用を図ります。

まちづくり総合計画の構成（政策体系）と行政評価

花巻市まちづくり総合計画は、本市の目指すべき将来都市像「市民パワーをひとつに歴史と文化で拓く 笑顔の花咲く温か都市 イーハトーブはなまき」を実現するため、5つのまちづくりの分野の目指す姿の下に、政策、施策、事務事業の3つの階層によって体系が構成されています。本市の行政評価は、この体系に基づいて実施しています。



行政評価の手法

平成26年度から10年間の計画期間とする花巻市まちづくり総合計画の策定を機に、従来の事務事業評価を中心とした評価から、施策を構成する事務事業の選択・重点化を重視した施策評価を中心とする評価システムを運用しています。

(1) 政策評価

過去2年間を振り返り、市政の方向を示す政策や政策を構成する施策を大局的な視点でとらえ、政策の目指す姿を実現するための問題点や課題を総括します。

(2) 施策評価

政策目的を達成するための手段としての施策の有効性、また、施策を構成する事務事業が妥当かを評価します。評価の主な視点は以下のとおりです。

- 施策の目的と目標の確認
- 施策の現状と課題の認識
- 施策を構成する事務事業の貢献度等の検証

(3) 事務事業評価

成果指標の達成状況の検証を行うとともに、施策目的を達成するための手段である事務事業について目的妥当性、有効性、効率性、公平性の視点で評価を行います。

3 行政評価委員会における評価の視点

市では、総合計画の策定を機に施策評価を中心とした行政評価システムを運用開始していることから、行政評価委員会においても、従来の事務事業評価の評価ではなく、市が行った施策評価が適切であるか検証し、評価を行いました。

① 成果指標について

- 成果指標の項目は施策の目指す姿に沿っているか。
- 目標値の設定は適切か。
- 他に考えられる指標はないか。
- 成果指標の達成状況についての的確な分析を行っているか。

② 施策を構成する事務事業について

- 施策を構成する事務事業は相対的に必要十分で過不足のないものになっているか。
- 目指す姿の実現に貢献している事業か。
- 市民ニーズや社会情勢の変化により、市の関与の必要性が低下した事業はないか。
- 施策の目指す姿を実現するために、さらに成果の向上を図る事業はないか。
- 他に考えられる事業はないか。

③ 施策の総合的な評価

- 施策の主な取り組み成果や成果指標の推移、施策を構成する事務事業の検証等を踏まえ、施策の目指す姿を実現するための問題点・課題が明確になっているか。

④ シート記載内容について

- 施策の取り組み実績や、事業内容等、わかりやすい記載内容となっているか。

4 評価対象の施策

市の総合計画では将来都市像と5つのまちづくり分野の「目指す姿」を掲げ、その「目指す姿」の実現のために実施する21の政策と72の施策を示しています。

行政評価委員会での評価にあたり、しごと、暮らし、人づくり・地域づくりの3部会を設置し、各部会において評価対象を決定し、計12施策の評価を実施しました。

平成28年度行政評価委員会評価対象施策

政策No.・政策名	施策No.・施策名	部会
1-1 農林業の振興	2 担い手の育成	しごと
	3 生産基盤の整備	
1-4 観光の振興	1 観光の魅力向上	
	3 移動しやすい観光地	
2-1 環境の保全	2 自然環境の保全	暮らし
	4 循環型社会の構築	
2-2 生活基盤の充実	2 公共交通の確保	
	3 住宅の安全確保	
3-2 学校教育の充実	1 学力・体力の向上	人づくり・ 地域づくり
	2 豊かな人間性の育成	
4-2 参画・協働の まちづくり	1 市政への参画・協働機会の拡充	
	2 公益的活動への支援	



第2回委員会（暮らし部会）



第4回委員会（しごと部会）

5 評価スケジュール

部会ごとに、担当課に対するヒアリングを実施し、市が内部評価で作成した施策評価シート（平成27年度実績評価）を検証、評価しました。

回	日時	会議	内容	会場
第1回	7月29日	全体会	行政評価の概要説明、部会設置、評価対象施策選定、日程調整	花巻市役所本庁舎
第2回 ～ 第5回	8月8日	暮らし部会、人づくり・地域づくり部会	ヒアリング、評価	花巻市役所新館、まなび学園
	8月17日	しごと部会、暮らし部会 人づくり・地域づくり部会		
	8月19日	しごと部会		
	8月22日	暮らし部会		
	8月23日	暮らし部会		
	8月25日	しごと部会 (午前午後2回開催)		
	8月30日	人づくり・地域づくり部会		
8月31日	人づくり・地域づくり部会			
第6回	9月12日	全体会	評価結果のまとめ	花巻市役所本庁舎



第5回委員会（人づくり・地域づくり部会）



第6回委員会（全体会）

6 評価検証シート

評価年月日 平成28年8月25日

				部会名	しごと部会
施策No.	1-1-2	施策名	担い手の育成	施策主管課	農政課
■内部評価について					
①成果指標について	<p>・成果指標の項目は、施策の目指す姿に沿っているか。 →沿っている。</p> <p>・目標値の設定は適切か。 →適切である。最終的な目標値は85%である。なお、この数値が100%でないのは、「産業としての農業」を念頭においているので妥当である。</p> <p>・他に考えられる指標はないか。 →ほかに考えられる適切な指標はない。ヒアリングの際に、花巻地区、石鳥谷地区、大迫地区、東和地区ごとの達成率の数値について言及されているので、それらで十分である。</p> <p>・成果指標の達成状況についての的確な分析を行っているか。 →的確な分析を行っている。</p>				
②施策を構成する事務事業について	<p>・施策を構成する事務事業は相対的に必要十分で過不足のないものになっているか。 →二つの事務事業で十分である。</p> <p>・目指す姿の実現に貢献している事業か。 →貢献している。</p> <p>・市民ニーズや社会情勢の変化により、市の関与の必要性が低下した事業はないか。 →特になし。</p> <p>・施策の目指す姿を実現するために、さらに成果の向上を図る事業はないか。 →法人化支援については、これまでは法人化への支援が中心であったが、今後は、法人が安定して経営が持続できるために必要な労働力の確保等の支援へ重点を移すことが必要である。また、中山間地の支援等については、地域毎の不均衡を改善する方向に重点を移すことが必要である。</p> <p>・他に考えられる事業はないか。 →中山間地の条件不利地の有効活用のためにオーナー制度を活用するか、先進地域の事例視察事業などを考えてほしい。さらに、農業の多面的な機能(農業者と非農業者の結びつきを強める、コミュニティの維持、環境保全)に着目した事業を展開してほしい。</p>				
③施策の総合的な評価	<p>・施策の主な取り組み成果や成果指標の推移、施策を構成する事務事業の検証等を踏まえ、施策の目指す姿を実現するための問題点や課題が明確になっているか。 →課題や方向性は明確になっている。さらに、新しい方向性として、「産業としての農業」という側面は当然であるが、地域のコミュニティや環境を維持している農業という側面を考慮した事業を考えてほしい。</p>				
④シート記載内容について	<p>・施策の取り組み実績や事業内容等、わかりやすい記載内容となっているか。 →特になし。</p>				

				部会名	しごと部会
施策No.	1-1-3	施策名	生産基盤の整備	施策主管課	農村林務課
■内部評価について					
①成果指標について	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標の項目は、施策の目指す姿に沿っているか。 →沿っている。ただし、該当地区の水田整備が必ずしも単年度で完了するわけではないので、目標値や実績値を単年度ごとに示すことが必要か、という意見があった。 ・目標値の設定は適切か。 →適切である。 ・他に考えられる指標はないか。 →特になし。水田整備率については、「産業としての農業」を考えるとほぼ上限に達しつつある。そこで、今後は、既存の整備水田が新たに改修・改善された割合などの指標が必要となるのではないか。 ・成果指標の達成状況についての的確な分析を行っているか。 →的確な分析を行っている。 				
②施策を構成する事務事業について	<ul style="list-style-type: none"> ・施策を構成する事務事業は相対的に必要十分で過不足のないものになっているか。 →8事業で十分である。 ・目指す姿の実現に貢献している事業か。 →貢献している。 ・市民ニーズや社会情勢の変化により、市の関与の必要性が低下した事業はないか。 →ない。 ・施策の目指す姿を実現するために、さらに成果の向上を図る事業はないか。 →畜産基盤強化事業、畜産競争力強化緊急整備事業はより支援すべきであり、花巻ブランドを作ってほしい。 ・他に考えられる事業はないか。 →中山間地では、条件不利地形であっても付加価値の高い作物を開発し、米ですすでに行われている地産地消のように、市場の開拓も含めた事業を行ってほしい。さらに、何十年も前に整備された水田について、更なる大規模化を進める事業もしてほしい。 				
③施策の総合的な評価	<ul style="list-style-type: none"> ・施策の主な取り組み成果や成果指標の推移、施策を構成する事務事業の検証等を踏まえ、施策の目指す姿を実現するための問題点や課題が明確になっているか。 →課題や方向性は明確になっている。 生産基盤の整備は今後も充実してほしいが、さらに、その生産が安定し、持続するためには、次世代の育成や労働力の確保(特に収穫期の)も必要である。 				
④シート記載内容について	<ul style="list-style-type: none"> ・施策の取り組み実績や事業内容等、わかりやすい記載内容となっているか。 →特になし。 				

				部会名	しごと部会
施策No.	1-4-1	施策名	観光の魅力向上	施策主管課	観光課
■内部評価について					
①成果指標について	<p>・成果指標の項目は、施策の目指す姿に沿っているか。 →ほぼ沿っている。イベント等の年間来場者数を指標とすることに問題はないが、成果指標の達成状況に基づいて課題等を抽出する際には、来場者の属性(県内、県外)に関する数値や、年間ではなく月別または季節別の数値があれば、よりの確に分析できるのではないかと、という指摘もあった。</p> <p>・目標値の設定は適切か。 →適切である。</p> <p>・他に考えられる指標はないか。 →来場者数の月別の数値があれば良い。</p> <p>・成果指標の状況についての的確な分析を行っているか。 →観光の形態の変化(団体旅行から小規模旅行へ)、観光ニーズの変化(見て廻るから更に体験型へ)、観光地選択情報取得手段の変化(インターネット等の利用重視へ)についての分析が不十分である。市のPR情報提供の改善はあるが、上記に挙げた指標をもとにターゲット地域・層を絞ることができれば良い。</p>				
②施策を構成する事務事業について	<p>・施策を構成する事務事業は相対的に必要十分で過不足のないものになっているか。 →二つの事務事業だけでは、観光形態の変化、観光ニーズの変化、観光地選択情報取得手段の変化等に十分対応できない。</p> <p>・目指す姿の実現に貢献している事業か。 →二つの事業は貢献している。税金である補助金の効率性も考えると、従来のイベントごとのいわば点支援からイベント間のネットワークを考えたいわば面への支援と視点を変化させる必要があると思われる。</p> <p>・市民ニーズや社会情勢の変化により、市の関与の必要性が低下した事業はないか。 →特になし。</p> <p>・施策の目指す姿を実現するために、さらに成果の向上を図る事業はないか。 →特になし。</p> <p>・他に考えられる事業はないか。 →祭りやイベントの主体である市民をフォロー、後継者を育成支援する事業、市のHPを通じた月別イベントカレンダーの作成等インターネット環境を充実させる事業、市の特産品(農産物、菓子類、民芸品など)、産業施設(工場見学、果樹園)と連携した体験型観光事業などが考えられる。</p>				
③施策の総合的な評価	<p>・施策の主な取り組み成果や成果指標の推移、施策を構成する事務事業の検証等を踏まえ、施策の目指す姿を実現するための問題点や課題が明確になっているか。 →課題、方向性は問題ない。課題解決のための上記に挙げたような新たな事務事業を考えていただきたい。</p>				
④シート記載内容について	<p>・施策の取り組み実績や事業内容等、わかりやすい記載内容となっているか。 →特になし。</p>				

				部会名	
				しごと部会	
施策No.	1-4-3	施策名	移動しやすい観光地	施策主管課	観光課
①成果指標について	<p>・成果指標の項目は、施策の目指す姿に沿っているか。 →沿っている。二次交通のバス等の利用は増えている。しかし、数値の大半が到着駅や空港から宿泊地(温泉)への移動であり、宿泊地(温泉)から観光地、観光地から観光地への移動割合についての調査は今後の課題である。</p> <p>・目標値の設定は適切か。 →適切である。ルート上にある観光地から観光地間の移動等の把握はこれで十分であるが、ルート上にない観光地から観光地間の移動等の把握は今後の課題である。</p> <p>・他に考えられる指標はないか。 →特になし。</p> <p>・成果指標の達成状況についての的確な分析を行っているか。 →的確に分析を行っている。平成27年度で終了した事務事業があるので、更なる成果向上のためにも、新たな事務事業を考えていただきたい。</p>				
②施策を構成する事務事業について	<p>・施策を構成する事務事業は相対的に必要十分で過不足のないものになっているか。 →なっている。「みちさき案内推進事業」は平成27年度に終了したので、新たな事務事業を考えていただきたい。</p> <p>・目指す姿の実現に貢献している事業か。 →「みちさき案内推進事業」によるサイン設置は、ナビ等の利用者が増大したとしても、貢献していると考えられる。 「観光ルート整備事業」は、旅行形態の変化(団体旅行から小規模旅行へ)に伴い、1台あたりの乗車数は減少しているが、観光客の利便性の向上には貢献している。</p> <p>・市民ニーズや社会情勢の変化により、市の関与の必要性が低下した事業はないか。 →特になし。むしろ、より積極的に関与すべきである。</p> <p>・施策の目指す姿を実現するために、さらに成果の向上を図る事業はないか。 →「観光ルート整備事業」は、さらに向上すべきである。これまでの主たるルートは、駅から宿泊地、宿泊地から主たる観光地が中心で、観光地から観光地のルートも新たに視野に入れてもらいたい。また、宿泊地の大半は温泉地であるが、各温泉地の特徴なども含めてPRしてほしい。</p> <p>・他に考えられる事業はないか。 →この事業の対象は、温泉から観光地が主である。しかし、近場からきて市内観光する観光客も存在し、そのような観光客に対する事業も考えてほしい。花巻市内の名品、地場産品をめぐるルートの開発(その際には、アンケートなどで若い人の感性を利用)をする事業。</p>				
③施策の総合的な評価	<p>・施策の主な取り組み成果や成果指標の推移、施策を構成する事務事業の検証等を踏まえ、施策の目指す姿を実現するための問題点や課題が明確になっているか。 →課題の指摘と方向性の把握はその通りである。この事業は、観光業の発展を通じて地域の活性化にもつながるもので、重要である。したがって、利用者ニーズを反映した方向性という指摘にもあるように、温泉地から市内観光地を主とする観光客、市内観光地間移動を主とする観光客など、ターゲット別の対応を考えていただきたい。</p>				
④シート記載内容について	<p>・施策の取り組み実績や事業内容等、わかりやすい記載内容となっているか。 →特になし。</p>				

				部会名	暮らし
施策No.	2-1-2	施策名	自然環境の保全	施策主管課	生活環境課
■内部評価について					
①成果指標について	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標の項目は、施策の目指す姿に沿っているか。 →沿っている。 ・目標値の設定は適切か。 →適切である。 ・他に考えられる指標はないか。 →ない。 ・成果指標の達成状況についての的確な分析を行っているか。 →的確と思われる。 				
②施策を構成する事務事業について	<ul style="list-style-type: none"> ・施策を構成する事務事業は相対的に必要十分で過不足のないものになっているか。 →「自然環境保全活動推進事業」という事業名だが、内容は早池峰山関係のみとなっている。今後も内容が変わらないのであれば、事業名はわかりやすいものが良い。 ・目指す姿の実現に貢献している事業か。 →貢献している。 ・市民ニーズや社会情勢の変化により、市の関与の必要性が低下した事業はないか。 →ない。 ・施策の目指す姿を実現するために、さらに成果の向上を図る事業はないか。 →環境保全に関する周知をもっと進めるべき。 ・その他 →ハヤチネウススキウ生誕80年記念事業において「実施計画がおくれたことから事業実施の告知が遅れた」とのことだが、あってはならないこと。 →河原の坊施設管理事業の活動指標が「総合休憩所開館日数」となっているが、シーズン中は開館しているのがあたり前では。「関連施設の点検回数」や「関連施設の修繕件数」が良いのではないか。 				
③施策の総合的な評価	<ul style="list-style-type: none"> ・施策の主な取り組み成果や成果指標の推移、施策を構成する事務事業の検証等を踏まえ、施策の目指す姿を実現するための問題点や課題が明確になっているか。 →早池峰山の環境保全やゼニタナゴの保全に取り組んでいるが、市内には他にも自然はある。もっと広く目を向けてもいいのではないか。 →自然を守るだけでなく、自然を豊かにすることも必要。この考え方を多くの市民に広めることも必要。 				
④シート記載内容について	<ul style="list-style-type: none"> ・施策の取り組み実績や事業内容等、わかりやすい記載内容となっているか。 →特になし。 				

				部会名	暮らし
施策No.	2-1-4	施策名	循環型社会の構築	施策主管課	生活環境課
■内部評価について					
①成果指標について	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標の項目は、施策の目指す姿に沿っているか。 →沿っている。 ・目標値の設定は適切か。 →適切である。 ・他に考えられる指標はないか。 →店頭でリサイクル回収しているスーパーなどの店舗数、回収量などが考えられる。(把握可能であれば) ・成果指標の達成状況についての的確な分析を行っているか。 →的確と思われる。 				
②施策を構成する事務事業について	<ul style="list-style-type: none"> ・施策を構成する事務事業は相対的に必要十分で過不足のないものになっているか。 →なっている。 ・目指す姿の実現に貢献している事業か。 →貢献している。 ・市民ニーズや社会情勢の変化により、市の関与の必要性が低下した事業はないか。 →ない。 ・施策の目指す姿を実現するために、さらに成果の向上を図る事業はないか。 →「ごみの排出量」については、生ゴミの水切りを周知徹底することで少しでも改善されるのではないかと。また、水切りの周知だけでなく、買いすぎ抑制(の周知)に取り組むことも重要ではないかと。 →市民への周知方法を検討する必要がある。 				
③施策の総合的な評価	<ul style="list-style-type: none"> ・施策の主な取り組み成果や成果指標の推移、施策を構成する事務事業の検証等を踏まえ、施策の目指す姿を実現するための問題点や課題が明確になっているか。 →明確になっている。 				
④シート記載内容について	<ul style="list-style-type: none"> ・施策の取り組み実績や事業内容等、わかりやすい記載内容となっているか。 →成果指標設定時に、県と北上市の数値を参考としているが、もっとほかの自治体のデータも示してほしい。 (クリーンセンター利用構成市町のデータはあってほしい)。 				

				部会名	暮らし
施策No.	2-2-2	施策名	公共交通の確保	施策主管課	都市政策課
■内部評価について					
①成果指標について	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標の項目は、施策の目指す姿に沿っているか。 →沿っている。 ・目標値の設定は適切か。 →適切である。 ・他に考えられる指標はないか。 →バス、飛行機の利用人数はあるが、他に鉄道の利用者数や、市民から見た空港の利便性の向上に関する指標が考えられる。 ・成果指標の達成状況についての的確な分析を行っているか。 →公共交通の実際の利用者の満足度を図ることができればよい。 				
②施策を構成する事務事業について	<ul style="list-style-type: none"> ・施策を構成する事務事業は相対的に必要十分で過不足のないものになっているか。 →なっている。 ・目指す姿の実現に貢献している事業か。 →貢献している。 ・市民ニーズや社会情勢の変化により、市の関与の必要性が低下した事業はないか。 →ない。 ・施策の目指す姿を実現するために、さらに成果の向上を図る事業はないか。 →ない。 ・他に考えられる事業はないか。 →ない。 				
③施策の総合的な評価	<ul style="list-style-type: none"> ・施策の主な取り組み成果や成果指標の推移、施策を構成する事務事業の検証等を踏まえ、施策の目指す姿を実現するための問題点や課題が明確になっているか。 →明確になっている。 				
④シート記載内容について	<ul style="list-style-type: none"> ・施策の取り組み実績や事業内容等、わかりやすい記載内容となっているか。 →用語の統一が必要と思われる。(デマンドバス、乗り合いバス等) また、用語が浸透するまでは用語の説明が必要である。 				

				部会名	暮らし
施策No.	2-2-3	施策名	住宅の安定確保	施策主管課	都市政策課
■内部評価について					
①成果指標について	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標の項目は、施策の目指す姿に沿っているか。 →沿っている。 ・目標値の設定は適切か。 →適切である。 ・他に考えられる指標はないか。 →特になし。 ・成果指標の達成状況についての的確な分析を行っているか。 →耐震化率の向上にかかる分析について、向上理由の分析があまい。 				
②施策を構成する事務事業について	<ul style="list-style-type: none"> ・施策を構成する事務事業は相対的に必要十分で過不足のないものになっているか。 →施策の課題解決に対する事務事業が少ない。 				
③施策の総合的な評価	<ul style="list-style-type: none"> ・施策の主な取り組み成果や成果指標の推移、施策を構成する事務事業の検証等を踏まえ、施策の目指す姿を実現するための問題点や課題が明確になっているか。 →人口減少に伴う、市営住宅需要について把握し、新規・改修計画等に反映させていく必要がある。 →空き家問題の深刻化を各々の課題とした方が良い。また、それを今後の方向性へ反映させるべきである。 				
④シート記載内容について	<ul style="list-style-type: none"> ・施策の取り組み実績や事業内容等、わかりやすい記載内容となっているか。 →構成する事務事業の直結度がわかりづらい。 				

				部会名	人づくり・地域づくり部会
施策No.	3-2-1	施策名	学力・体力の向上	施策主管課	小中学校課
■内部評価について					
①成果指標について	<p>・成果指標の項目は、施策の目指す姿に沿っているか。 →いずれも行政による取り組みの成果指標として、目指す姿に沿っている。ただし、この施策の目指す姿の実現には、後述するように行政以外による取り組みも重要である。</p> <p>・目標値の設定は適切か。 →学力の目標値設定は適切である。ただし、体力の目標値については、体力・運動能力の低下傾向の現状を考慮し、水準の見直しが必要である。</p> <p>・他に考えられる指標はないか。 →児童・生徒が「いきいきと」学力や体力の向上に取り組むためには、「学習定着度調査」や「体力・運動能力調査」による客観的な値だけではなく、児童・生徒が意欲を持って(楽しみながら)学力や体力の向上に取り組んでいるかどうかを確認することも重要である。</p> <p>・成果指標の達成状況についての的確な分析を行っているか。 →施策評価シートの記述は行政による取り組みの分析のみにとどまっており、十分ではない。施策の目指す姿の実現における家庭や地域社会などの行政外部の状況についても視野に入れる必要がある。</p>				
②施策を構成する事務事業について	<p>・施策を構成する事務事業は相対的に必要十分で過不足のないものになっているか。 →過剰なものはないが、以下のように不足しているものがある。</p> <p>・目指す姿の実現に貢献している事業か。 →現在の事務事業はいずれも目指す姿の実現に貢献している。</p> <p>・市民ニーズや社会情勢の変化により、市の関与の必要性が低下した事業はないか。 →ない。</p> <p>・施策の目指す姿を実現するために、さらに成果の向上を図る事業はないか。 →学力向上推進事業(学力向上支援)の模範授業・講義の取り組みは、受講者数や開催数を拡大し、より多くの教員が模範的な教育に触れられるようにする必要がある。また、1時限あたりの授業時間を長くし、児童・生徒が考える時間を確保することも、考える力を養う点で学力向上に資すると考える。</p> <p>・他に考えられる事業はないか。 →施策評価シートの「施策の基本情報:現状と課題」において、「基礎的な知識・技能を活用する力の育成が十分でない」「食生活や生活習慣の変化により、肥満傾向の児童生徒の割合が若干増加傾向」との指摘があるものの、現状ではこれらの課題に対応する事業がない。基礎基本の活用に関する事業、および食育指導に関する事業が必要である。</p>				
③施策の総合的な評価	<p>・施策の主な取り組み成果や成果指標の推移、施策を構成する事務事業の検証等を踏まえ、施策の目指す姿を実現するための問題点や課題が明確になっているか。 →(課題)の1つ目の項目は何が課題なのかが不明確である。また(課題)の2つ目の項目は課題だけでなくその解決の大まかな手法にまで言及している。加えて(課題)の3つ目の項目では体力向上の取り組みの必要性に言及しているにもかかわらず、(今後の方向性)では具体的な取り組み内容が示されていない。</p>				
④シート記載内容について	<p>・施策の取り組み実績や事業内容等、わかりやすい記載内容となっているか。 →概ねなっている。</p>				

				部会名	人づくり・地域づくり部会
施策No.	3-2-2	施策名	豊かな人間性の育成	施策主管課	小中学校課
■内部評価について					
①成果指標について	<p>・成果指標の項目は、施策の目指す姿に沿っているか。 →いずれも沿っている。</p> <p>・目標値の設定は適切か。 →いずれの指標も実績値は高い水準にあると考えられるので、目標値は更なる増加を目指すよりも、現状維持が適切である。</p> <p>・他に考えられる指標はないか。 →施策の目指す姿にある「郷土を誇り」としているかどうかに関する指標が必要である。</p> <p>・成果指標の達成状況についての的確な分析を行っているか。 →指標推移の分析が裏づけのない主観的なものを根拠にしており、的確とは言い難い。また、施策の目指す姿の実現の上で重要な役割を持つ家庭の現状や、いじめ・不登校などの成果指標では見えない部分についても背景・要因に含まれておらず、効果的な施策推進につながる分析になっているとは言い難い。</p>				
②施策を構成する事務事業について	<p>・施策を構成する事務事業は相対的に必要十分で過不足のないものになっているか。 →不足している(下記参照)。</p> <p>・目指す姿の実現に貢献している事業か。 →小学校・中学校の国際理解教育事業において成果指標の設定が無いのは、これらの事業が施策に貢献していないものと受け取らざるを得ない。国際理解教育の2事業の成果指標が必要である。</p> <p>・市民ニーズや社会情勢の変化により、市の関与の必要性が低下した事業はないか。 →ない。</p> <p>・施策の目指す姿を実現するために、さらに成果の向上を図る事業はないか。 →ない。</p> <p>・他に考えられる事業はないか。 →郷土に対する誇りを持ってもらうための事業が無く、小中学生に市民憲章への理解を深めてもらう取り組みが必要である。また、「成果指標の達成状況」で触れられている「学校や家庭で自分の良さを発見させる指導がまだ十分でない」ことに対する対策も必要である。</p>				
③施策の総合的な評価	<p>・施策の主な取り組み成果や成果指標の推移、施策を構成する事務事業の検証等を踏まえ、施策の目指す姿を実現するための問題点や課題が明確になっているか。 →記載内容が「特別の教科 道徳」の全面実施に向けた教員対象の研修に関する(課題)と(今後の方向性)だけになっている。現在の9つの事務事業に関する(課題)と(今後の方向性)に全く触れておらず、施策の総合的な評価とは言い難い。</p>				
④シート記載内容について	<p>・施策の取り組み実績や事業内容等、わかりやすい記載内容となっているか。 →施策評価シート「1 施策の目指す姿の実現に向けた主な取り組み実績」の記載順と、「4 施策を構成する事務事業一覧」の記載順が一致しておらず、施策の中でどのような内容の事業が行われ、それらがどのような成果をあげているのかが把握しにくい。</p>				

			部会名	人づくり・地域づくり部会	
施策No.	4-2-1	施策名	市政への参画・協働機会の拡充	施策主管課	地域づくり課
■内部評価について					
①成果指標について	<p>・成果指標の項目は、施策の目指す姿に沿っているか。 →参画に関する指標のみで、協働に関する指標がない。協働の指標は、市民アンケートG-3《協働のまちづくり》が妥当である(政策4-2の成果指標と重複で構わない)。</p> <p>・目標値の設定は適切か。 →目標値を増やしていく方向性自体は適切である。ただし、参加の裾野を広げるのであれば、市民全体の目標値だけではなく、市民アンケートのクロス集計で値が低い人達の目標値も必要である。</p> <p>・他に考えられる指標はないか。 →市民アンケートの性別・年齢別などのクロス集計も指標に含めれば、全体の底上げをはかる際にどこに重点を置けばよいかも明らかになる。また、市民アンケートは「主観」的な評価であるので、ハガキやメールの件数などの、実際の行動に関する「客観」的な指標も必要である。</p> <p>・成果指標の達成状況についての確かな分析を行っているか。 →施策評価シートでは、平成26年と平成27年で「市政へ意見を述べる機会の確保」の指標が目標値を上回った背景の説明が不十分である。</p>				
②施策を構成する事務事業について	<p>・施策を構成する事務事業は相対的に必要十分で過不足のないものになっているか。 →協働に関する取り組みが不足している。</p> <p>・目指す姿の実現に貢献している事業か。 →市民の市政参画の機会確保の面では貢献している。</p> <p>・市民ニーズや社会情勢の変化により、市の関与の必要性が低下した事業はないか。 →ない。</p> <p>・施策の目指す姿を実現するために、さらに成果の向上を図る事業はないか。 →参画の少ない住民層を主な対象に協働に関する取り組みを増やし、成果の向上を図る必要がある。また、市民の市政参画や協働の成果向上を図る上で、市民参画・協働推進委員会の機能が現状では弱い。</p> <p>・他に考えられる事業はないか。 →市民に市政への参画や協働の行動を起こしてもらうには、その前段階として市政への関心を高めてもらう必要がある。そのためには市長選挙や市議会選挙などの投票率向上の取り組みや、コミュニティ会議に一般市民が参加しやすくなるような工夫など、本施策の取り組みだけではなく、他の施策の取り組みとの連携も重要である。</p>				
③施策の総合的な評価	<p>・施策の主な取り組み成果や成果指標の推移、施策を構成する事務事業の検証等を踏まえ、施策の目指す姿を実現するための問題点や課題が明確になっているか。 →施策評価シートの(課題)の内容と(今後の方向性)の内容が対応しておらず、問題点や課題が十分整理されているとは言えない。また、市民の立場で見ると、課題に記載されている問題点は捉え方が甘い。今後の方向性の内容が具体性に乏しく、具体的な工夫の内容を明記する必要がある。</p>				
④シート記載内容について	<p>・施策の取り組み実績や事業内容等、わかりやすい記載内容となっているか。 →ヒアリングの際、施策評価シートの書面に書かれていないものの、重要と思われる取り組みの話が出たことから、施策評価シートでは、参画や協働に関する取り組みが十分に記載されていないと考える。特にゼロ予算で知恵と工夫で取り組んでいることがあるのであれば、評価シートに記載すべきである。</p>				

				部会名	人づくり・地域づくり分会
施策No.	4-2-2	施策名	公益的活動への支援	施策主管課	地域づくり課
■内部評価について					
①成果指標について	<p>・成果指標の項目は、施策の目指す姿に沿っているか。 →成果指標以前に、行政と市民の間で、施策名の「公益的活動」や、まちづくり市民アンケートの設問文の「ボランティア団体」「NPO法人」の言葉の定義を共有できておらず、施策の目指す姿自体を共有できていない。「地域づくりの活動」も公益的活動に含めれば、ボランティアやNPOの活動に参加する市民はもっと多いと考えられる。地域づくりの活動を含まない現状の成果指標は、市民が「公益的活動」という言葉からイメージする目指す姿に沿っていない。 市民のボランティアやNPOへの参加を、地域づくりに関するもの(政策.4-1)とそれ以外(政策4-2)の2つに分ける目的(行政として何をを目指すのか)について市民の理解が必要がある。現状の施策の設定が市民から見て分かりやすいものになっていない(1つにまとめても良いのではないか)。</p> <p>・目標値の設定は適切か。 →ボランティアやNPOへの市民の参加を少しずつ増やす方向性は適切であるが、数年間参加が伸びていない現状を考慮すれば、目標値を現状に合わせて見直す必要がある。</p> <p>・他に考えられる指標はないか。 →施策名を踏まえれば、「市民団体等活動支援事業」の活動指標である「補助事業を活用した市民団体等数」も施策の指標に含める必要がある。また、公益的活動の活発化を目指すのであれば、活動が停滞している団体の掘り起こしの件数も施策の実績に含めるべきである。</p> <p>・成果指標の達成状況についての確かな分析を行っているか。 →成果指標の伸び悩みの原因を市の施策や事業(市民団体等活動支援事業の周知不足)だけに求めるのは分析として不十分である。市内の中間支援団体の活動が停滞していることなど、市の取り組み以外の要素にも目配りする必要がある。</p>				
②施策を構成する事務事業について	<p>・施策を構成する事務事業は相対的に必要十分で過不足のないものになっているか。 →不足している。</p> <p>・目指す姿の実現に貢献している事業か。 →現状の2つの事業は貢献している部分もあるものの、これだけでは不足である。</p> <p>・市民ニーズや社会情勢の変化により、市の関与の必要性が低下した事業はないか。 →ない。ただし、市民団体等活動支援事業の本来の目的が市民団体等の育成にあることを踏まえれば、各団体の単発の活動への補助となっている現状のあり方は、本来の目的に沿うように見直していく必要がある。</p> <p>・施策の目指す姿を実現するために、さらに成果の向上を図る事業はないか。 →市民団体等活動支援事業については、本当に支援を必要とする(資金不足等で活動が停滞しているなど)団体の掘り起こしが必要である。</p> <p>・他に考えられる事業はないか。 →支援を要する団体の掘り起こしに関して、「ボランティア団体やNPO法人の総会の席上でのアピール」のほかにも、たとえば総合支所単位での市民団体対象の説明会の開催が考えられる。また現在活動が停滞している中間支援団体の育成やテコ入れも必要である。</p>				
③施策の総合的な評価	<p>・施策の主な取り組み成果や成果指標の推移、施策を構成する事務事業の検証等を踏まえ、施策の目指す姿を実現するための問題点や課題が明確になっているか。 →この施策の目指す姿は、この施策の事業だけで実現できる訳ではない。目指す姿の実現に向けて、他の手段の活用も視野に入れた問題点や課題の洗い出しが必要と考える(「地域おこし協力隊」の活用、中間支援団体のテコ入れなど)。</p>				
④シート記載内容について	<p>・施策の取り組み実績や事業内容等、わかりやすい記載内容になっているか。 →公益活動への市民参加を増やす目標があるのであれば、たとえば「市民団体等活動支援事業一覧」には交付額や事業内容だけではなく、参加人数の情報も必要である。また、支援を要する団体の掘り起こしが必要なのであれば、市内の市民団体等の一覧も必要と考える。 →「市民団体等活動支援事業」の事務事業評価シートの公平性の評価の○印の位置とコメントの内容が適切でない。制度の周知不足は潜在的な対象者に受益機会を十分与えていないことを意味しており、「受益機会の見直し余地がある」に○を付けるのが妥当である。また、現状のように受益機会を十分与えなくても交付要綱に基づく補助は可能であるため、「交付要綱に基づく補助金であり適正である」とのコメントは、受益と負担の適正化についての現状評価のコメントとして適切でない。</p>				

7 行政評価に関する提言

- 評価の全体像や前年までとの変更点などを把握して評価に臨めるよう、年度初めの委員会でその年の評価方針や重点部分等を十分に示してほしい。また、前年の問題点や課題がどう見直しされてきたのかを示していただくと、施策の実施状況や意見の反映状況が確認できる。
- 評価作業に入る前に評価方法等を事前学習する機会を設けると、評価の精度や内容をもう少し充実させることができたのではないかと。
- 評価対象施策を決定する際、委員の希望を採用しているが、希望制では評価対象とならないものも出てしまう。3、4年のサイクルで全ての施策が必ず評価の対象となるような進め方をしていく必要があるのではないかと。
- 今年度は72施策中、12施策を評価させていただいたが、残り60施策について外部評価をしないことについて、市民に対する説明が必要ではないかと。
- 花巻市まちづくり総合計画はしごと、暮らし、人づくり、地域づくり、行政経営の5つの分野に区分されているが、行政経営分野が外部評価対象から外れている説明がない。しごと、暮らし、人づくり、地域づくり分野を各政策における具体的なアプリケーションと考えれば、行政経営分野はオペレーションシステムのようなものだろうと思うが、これを評価対象としなくて良いものか。
- 「行政評価に関する提言」をするためには、前年等の資料を提示していただくことで、より建設的な意見を述べることができるのではないかと。

花巻市行政評価委員会設置要綱

平成23年7月26日告示第273号
改正 平成26年3月28日告示第72号

(設置)

第1条 市の行政評価の客観性と透明性の向上を図るため、花巻市行政評価委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌)

第2条 委員会の所掌事項は、次のとおりとする。

- (1) 市が実施した行政評価の結果について評価すること。
- (2) 行政評価の改善について市長に提言すること。
- (3) その他行政評価に関し意見を述べること。

(組織)

第3条 委員会は、委員18人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱する。

- (1) 公共的団体等から推薦された者
- (2) 学識経験を有する者
- (3) 公募による者

3 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に委員長及び副委員長各1人を置き、委員の互選により定める。

2 委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は欠けたときは、その職務を代理する。

(部会)

第5条 委員会に部会を設ける。

2 部会に属すべき委員は、委員長が委員の意見を聴いて指名する。

3 部会に部会長を置き、部会に属する委員の互選とする。

4 部会長に事故があるとき又は部会長が欠けたときは、あらかじめ部会長が指名する部会に属する委員がその職務を代理する。

(会議)

第6条 会議は、委員長が招集する。

2 委員長は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求め説明又は意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、総合政策部において処理する。

(補則)

第8条 この要綱に定めるもののほか必要な事項は、別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この告示は、平成23年7月26日から施行する。

(経過措置)

2 平成23年度において委嘱する委員の任期については、第3条第3項の規定に関わらず、委嘱の日から平成25年3月31日までとする。

附 則 (平成26年3月28日告示第72号)

この告示は、平成26年4月1日から施行する。

委員名簿

任期：H28.7.29~H30.7.28

区分	所属団体等	氏名	部会	備考
(1)公共的団体等から推薦された者	花巻農業協同組合	高橋 勉	しごと	
	花巻商工会議所	小山田 雅一	人づくり・地域づくり	
	社会福祉法人花巻市社会福祉協議会	高橋 照幸	暮らし	
	花巻工業クラブ	佐藤 忠司	しごと	
	一般社団法人花巻観光協会	高橋 誠	人づくり・地域づくり	
	花巻市PTA連合会	佐藤 誠吾	人づくり・地域づくり	
	花巻市食生活改善推進員協議会	吉田 幸子	暮らし	
	公益社団法人花巻青年会議所	箱崎 陽介	しごと	
	一般財団法人花巻市体育協会	尾美 裕功	暮らし	
	花巻市芸術協会	福盛田 弘	暮らし	
	東北税理士会花巻支部	戸来 一夫	しごと	
一般社団法人岩手県建築士会花巻支部	木村 直樹	暮らし		
(2)学識経験を有する者	学校法人富士大学経済学部教授	影山 一男	しごと	委員長 部会長
	学校法人富士大学経済学部教授	鈴木 健	暮らし	副委員長 部会長
	公立大学法人岩手県立大学総合政策学部准教授	堀籠 義裕	人づくり・地域づくり	部会長
(3)公募による者	公募委員	高橋 セキ子	しごと	
	公募委員	板垣 武美	人づくり・地域づくり	